



いわき市石森2丁目2-11  
 携帯電話 090-7564-3253  
 自宅電話・FAX 23-3538  
 E-mail karino@karino-m.jp  
 H P <http://karino-m.jp>

## 廃炉はできるのだろうか？ 福島第一原発 視察

社民党福島県連合原発対策委員会の取り組みとして5月22日に東京電力福島第一原子力発電所視察が40名の参加で行われ、いわきからは4名が参加しました。

集合場所のJヴィレッジの東京電力福島復興本社の広い駐車場には多くの車と福島第一原発への送迎用の大型バスが止まっています。毎日3千人の作業員がここを起点として働いています。放射線量は玄関付近で0.07μSv/h。



大型バスが駐車しているJヴィレッジ



ゲートのある

東京電力福島復興本社会議室で説明を受ける 消防署前は2.6μSv/h。夜の森3.5μSv/h。大熊7.5μSv/h。第一原発入口交差点9.5μSv/h。正面玄関3.6μSv/h。免震重要棟入口19μSv/hでした。

免震重要棟に入りマスク、手袋、靴カバーを外す。会議室で「1~4号機の安定化・廃止措置等に向けた現在の取り組みについて」説明を受ける。その後、靴カバー、手袋、ゴム手袋、マスクを着け、シートがビニールで覆ってあるバスに乗り現地を回る。多くの方が防護装備を着け作業しているのは異様な感じです。

## 福島第一原発 3号炉脇は1,420マイクロシーベルト

原子炉注水ポンプ、処理水貯蔵タンク60μSv/h。多核種除去施設5.4μSv/h。水タンク110μSv/h。4号炉脇50μSv/h。3号炉脇1,420μSv/h。5号炉脇2.9μSv/hでした。

汚染水のタンク、使用済み核燃料を入れるペレット、それを入れるコンクリート製の箱が林立し、更に建設を進めている様は正に「いたちごっこ」。マスコミ報道はされてはいるものの「百聞は一見にしかず」。本当に廃炉はできるのだろうか？との思いを強く持ちました。

バスを乗り換えサーベイメーター(600台/日)で外部被曝の線量を計測する。帰りのバスの中で質問が行われました。汚染水、地下水流入、敷地内核種と線量、除去物質の保管、防波堤の高さ、被曝労働者の作業内容と作業条件、防災体制、湾内の魚の線量等々の質問がされましたが、納得できるものではなく、県連合では今回の視察の内容を踏まえ、新たに「質問、要望」を東電に出し、脱原発の運動を進めていくと。

Jヴィレッジに戻り、約3時間半の私の累積個人線量は20μSv/hでした。(秋葉信夫)